

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472401338
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
訪問調査日	平成 21 年 4 月 27 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 25 日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1472401338
法人名	ミモザ株式会社
事業所名	ミモザ茅ヶ崎萩園
所在地	神奈川県茅ヶ崎市萩園1202 (電話) 0467-84-6721

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年4月27日	評価確定日	平成21年5月25日

【情報提供票より】(平成21年4月5日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 11.7

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	38,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(900,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,315 円		

(4)利用者の概要(平成21年4月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	真和クリニック、茅ヶ崎特州会総合病院、ハローデンタル
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

◇平成18年3月に開設したJR茅ヶ崎駅からバスで約15分、一般住宅に囲まれた静かな環境にある2ユニットの事業所で、1階にデイサービスを併設している。
 ◇事業所の理念に、「安心できる環境創りに努め」、「明るい笑顔で穏やかに接し」、「常に気づきの努力をしていく」を掲げて、利用者が地域の中で安心して生活できるケアを実践している。
 ◇建屋内は明るく清潔で、リビングには観葉植物や花を飾り、壁には大きな桜の木のちぎり絵や花見の写真を飾って季節感を演出している。
 ◇利用者は、花見やイチゴ狩り、クリスマス会などの行事他、ボランティアによる音楽療法を楽しんでいる。また、毎日リハビリ体操を行って身体機能の維持管理にも努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前回の評価での、課題は次のとおり改善を図っている。 ①重度化や終末期に向けた方針を確立し、家族、医師など関係者間に周知している。 ②防災・避難訓練を実施しており、運営推進会議で自治会を通じて、地域の協力を要請している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・管理者は評価の意義とねらいを理解し、職員に前回の外部評価の結果と今回の自己評価について説明している。自己評価は職員の意見を入れてユニットリーダーがまとめ、管理者が最終的にとりまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・運営推進会議は2か月に1回開催し、メンバーには自治会連合会代表、自治会長、民生委員、市役所高齢福祉課と地域包括支援センターの職員、家族代表が出席している。 ・会議では、運営や行事内容などを説明し、地域代表者を通じて、災害時に地域の協力が得られるよう働きかけをしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・玄関には苦情相談ポスターを掲示し、家族の意見や苦情を入れる「目安箱」がある。家族の来訪時や、電話連絡の折に申し送りノートや個人記録に記録して職員間で情報を共有している。 また、年2回の家族会を行っており、家族の率直な意見を聞く機会となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・自治会に加入しており、回覧板の受け渡しは利用者が行っている。 ・職員が自治会の賀詞交換会や公民館のお祭りに参加している。利用者は夏祭の神輿見物のほか、地域のケアセンター祭りなどのイベントに積極的に参加している。 ・歌や民謡、フラダンス、習字などの地域のボランティアを受け入れ、利用者は交流を楽しんでいる。市内の中学生の体験学習を受け入れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所の理念には開設当初から、「安心できる環境創りに努め」、「明るい笑顔で穏やかに接し」、「常に気づきの努力をしていく」を掲げ、また、介護の心得として「家庭的な雰囲気づくりと意志の尊重」、「安心感を与える」、「安らぎのある生活」を常に念頭に、日々の介護にあたっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は事務室や、廊下に掲示して、職員だけでなく利用者や家族にも周知している。 ・管理者は、理念を職員の入職時のほか、申し送り時やスタッフ会議でも説明して、職員間での理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入しており、地域の賀詞交換会や公民館の祭りにも参加している。 ・地域の夏祭りの折には、みこしを事業所近くで見物し、近隣の企業や地域のケアセンターの祭りやイベントにも参加して、地域社会との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者は職員に評価の意義とねらい、前回の外部評価での課題、及び今回の自己評価への取り組みを説明している。 ・自己評価は職員の意見を採り入れ、ユニットリーダーが内容をチェックして、最終的に管理者がとりまとめた。	○	・自己評価作成の意義は、職員が現状の課題に気づくことにありますので、次回は、全職員の参加のもとに作成されることが望まれます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は2か月ごとに開催し、メンバーには自治会連合会代表、自治会長、民生委員、市役所高齢福祉課と地域包括支援センターの職員、家族代表が出席している。 ・会議では運営や行事内容などを説明し、意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が市役所高齢福祉課へ、事業所の運営状況や業務上の問題点を伝え、助言や指導を仰いでいる。 ・茅ヶ崎市介護相談員2名が月に1回来訪し、職員や利用者とは個別に体調管理面などについて話し合い、サービスの質の向上に取り組んでいる。 		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の健康状態や生活ぶりは、家族の来訪時に伝え、生活状況報告書を毎月郵送している。 ・広報誌「湘南の空」には、誕生会やイチゴ狩りなどの写真を載せ、家族に利用者の暮らしを報告している。 ・小口現金の取り扱いは、明細表と領収書を添えて介護保険請求書と一緒に送付している。 		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関には苦情相談ポスターを掲示し、意見や要望用の目安箱がある。家族の来訪時には声を掛けて気軽に話せる雰囲気を作り、意見や要望を聞きだしている。 ・家族からの要望や意見はミーティングで話し合い、検討結果は電話で回答するとともに、内容により運営に反映している。 		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者とは馴染みの関係を重視し、職員の異動を最小限に抑え、利用者や家族の不安の原因とならないように努めている。 ・職員はユニット間の異動が利用者に影響しないように、他のユニットのレクリエーションや行事にも参加して馴染みの関係づくりに配慮している。 		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営法人は職員の人材育成の必要性を認識し、採用時研修、エルダー研修、ケアマネジャー研修などの経験に応じた研修を計画的に実施している。研修受講後は研修報告書を職員に回覧して共有化を図っている。 ・職員の内部研修は日常業務を通じて学ぶO.J.Tが主体である。 		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が茅ヶ崎市介護サービス事業者連絡会や地域連絡協議会に参加し、同業者との協力関係を深めている。 ・運営法人内の地域のグループホーム間で交換研修を行い、相互のサービスの質の向上につなげるように努めている。 		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・利用者・家族には、事前に事業所を見学してサービス内容を把握してもらい、また、3日から1週間の体験入所し、徐々に馴染み、納得してから入所してもらっている。 ・職員が利用者の自宅や病院を訪問して、利用者・家族と話し合い、生活状況や生活歴、身体状況の把握に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は、利用者と一緒に過ごしなが、お互いに支え合って暮らすように努めている。 ・職員は、野菜の調理方法や、手芸、刺繍、日本画など、利用者の得意分野から学ぶことが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員は、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を、日常の会話の中で聞きとり、また、行動や表情から汲みとるように努めている。 ・自分の思いを伝えられない方には、職員から問いかけたり、家族から電話をかけてもらい、希望や意向の把握の仕方を工夫している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画は利用者の意向、家族の意見や要望をヒアリングし、関係職員がケアカンファレンスを行い、一人ひとりの基礎プランを立てて作成している。 ・立ち上げシートで問題点を抽出し、モニタリングして、かかりつけ医の所見を入れ、現状に即した計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画の見直しは、通常3か月毎に行っている。 ・利用者の心身などに変化があった場合は必要に応じてその都度見直しをしている。 ・作成した介護計画は、面談の折家族の同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・利用者の通院は、原則として家族にお願いして入るが、同伴できない場合は、外部業者のヘルパーに依頼している。 ・地域の民生委員には、認知症に対するケアの問題などで相談に応じる旨を伝えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人及び家族等の希望を大切に、継続してかかりつけ医による医療を受診を支援している。なお、通院には原則として家族が付き添いを依頼している。 ・かかりつけ医がいない場合には、協力医療機関の内科医、歯科医への受診を勧めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・入所時には利用者が重度化した場合や終末期における医療処置について説明している。事業所としては、ターミナルケアについて可能な範囲で取り組む方針であるが、内科医・看護師、家族、職員間で、利用者にとって最善のケアについて話し合い関係者間で方針を共有している。 ・職員にはターミナルケアの研修を計画している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・入職時に誓約書を提出させ、スタッフ会議でプライバシーの確保について周知徹底を図っている。 ・個人情報の書類は、施錠できる書庫に保管し、外部への持ち出しを禁止している。 ・排泄時や入浴時には、利用者のプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・普段の会話の中から、一人ひとりの思いや希望を汲み取り、利用者のペースに合わせた生活が送れるように支援している。食事時間やレクリエーションにも利用者の要望を反映している。 ・近くのスーパーマーケットへの買い物には、職員が数人のグループに分かれて付き添っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者と職員は食事の準備、盛り付け、テーブル拭き、後片付け、洗い物などを一緒に行っている。 ・誕生会では、ケーキ、焼きそばやお好み焼きを食べ、出前で好きな物を取り寄せて楽しむ工夫をしている。 ・家族会の日は、ちらし寿司を作り、利用者、家族、職員が全員でテーブルを囲んでいる。	○	・利用者とお互いに打ち解け共通の話題が持てるように、一部の職員でも利用者と同じ食事を摂ることが期待されます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は基本的には3日に1回としているが、本人の希望があれば、入浴できるように支援している。 ・入浴を嫌がる方には「入浴するとむくみが取れますよ」と伝え、タイミングをみたりして声かけや誘導に工夫をしている。車椅子の方にはシャワー浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一人ひとりの生活歴を活かし、煮物作り、盛りつけ、テーブル拭き、朝の掃除、洗濯物干し・たたみなど力量にあった役割を見付けて、張り合いや喜びが持てるように支援している。 ・絵、塗り絵や習字、音楽療法や体操など、利用者の好きなことに参加し、楽しみと気晴らしができるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は車椅子利用者も一緒に参加し近くを散歩している。玄関前で外気浴し、近くのケアセンターの喫茶店でコーヒータイムを楽しんでいる。 ・初詣や花見のドライブ、年1回のバス旅行で遠出など、戸外に出かける楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関は安全面から電子錠を取り付けているが、1階と2階のユニット入り口は鍵をかけずに出入り自由としている。 ・玄関の電子錠については家族に了解を得ている。外出傾向のある方には、職員が見守り支援している。居室の鍵は本人の希望に任せている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人の協力を得られるよう働きかけている	・防災・避難訓練は利用者も参加して、年2回実施している。 ・非常災害用の水や食料、懐中電灯や紙おむつなどの備品類を備蓄している。 ・運営推進会議では、地域代表者を通じて、災害時に地域の協力が得られるよう働きかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・業者から食材を献立表と一緒に調達し、食べやすいように職員が味付けするなど独自の工夫を加えている。 ・運営法人の栄養士が、栄養バランスやカロリーに配慮し、利用者の嚥下状況に合わせた調理の仕方を指示している。 ・食事の摂取量は、個人別に毎食チェック表に記入しているが、水分量は現在記録していない。 	○	・脱水症状を未然に防止するためにも、個人別に水分摂取量を記録しておくことが望まれます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは、明るく、観葉植物や花を飾り、壁には大きな桜の木のちぎり絵と、花見の写真を飾り、季節感を演出している。また、絵画や書、利用者が毎日日付けを替える手製の日めくりがあり、温かみのある雰囲気となっている。 ・ソファやダイニングテーブルを配置し、利用者はそれぞれお気に入りの場所で寛いでいる。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室には、使い慣れた馴染みのタンスやテレビ、仏壇などを持ち込み、塗り絵や趣味の作品、家族の写真を飾って、思い思いの居心地のよい部屋作りをしている。 ・車椅子の方にはベッドの下やドアの内側に鈴をつけ、夜間のトイレや起床時に、すぐに職員が駆けつけられるように工夫している。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ミモザ茅ヶ崎萩園
(ユニット名)	さざなみ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県茅ヶ崎市萩園1202
記入者名 (管理者)	斉藤 春美
記入日	平成 21 年 4 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>会社の経営理念・運営方針の他の事業所、独自の理念と理念に対する介護の心得を作り、壁に貼付している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフミーティング、全体会議等で理念の共有、実践に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>地域運営推進会議等で、地域の方々に、又、家族会等で”安心できる生活の場づくり”をお話して理解して頂くように取り組んでいる。年2回8.11月西浜中学校にの研修に来てもらっている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>自治会のお知らせ・回覧板をご利用様とスタッフが一緒に渡しに行っている。近くのケアセンターの催し物のある時は、体調のすぐれないご利用様を除き、誘い出かけている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会長より、地域の催しを教えていただき、昨年8月地域の会社の納涼祭・夏祭り、市内中学生のボランティア等、交流している。</p>	

ミモザ茅ヶ崎菰園(さざなみ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>自治会長をとおして、地域の暮らしに役立つ事があれば参加したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進委員会や地域のサークル同好会等の方による演奏会・踊り等は、少しずつ広がりを見せている。利用者の力量に応じてお金を支払ってもら。今、少しずつやり始めている。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時は、訪問調査等で不安・疑問点を尋ねている。解約時は、利用者・家族と十分な話し合い(長期入院の為の退居時等)を説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃コミュニケーションの中の職員の気づきとしてスタッフミーティング・サービス担当者会議等にあげて意見の反映に努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月の生活状況と個別現金票をご家族に送付している。又、広報誌にて職員の異動等をお知らせしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情めやす箱を玄関に置き、ご家族様にも気軽に投書して頂くよう家族会・面会時に伝えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から意見・提案・改善等のコミュニケーションを心がけてくれている。スタッフ会議・全体会議で報告され、スタッフの意見も聞いて話し合っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日頃から職員の確保と話し合いや、勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が変わる時は、引継ぎの期間をとり、スムーズに移行できるように配慮している。</p>	<p>○ 法人の人事に働きかけて、短期間の幹部職員の異動は、慎重にしてもらいたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>エルダー社員制度があり、新人職員にOJTで伝える様にしていく。法人内外の研修を受ける機会の確保(認知症実践者研修・認知症実践者リーダー研修等)にも努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者が2ヶ月に1回、茅ヶ崎市の施設部会や地域連絡協議会に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スーパーバイザーとして話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。親睦会、話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日々、働き続けるため取り組み、運営者と職員個々との面接等行っている。(近未来プラン 等)</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者、現場リーダー2人で、訪問調査を行い、本人自身からよく聴く機会をつくっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時、家族からの相談には、その都度、よく聴くよう努め、スタッフ全員でミーティング等をするよう努めている。</p>	

ミモザ茅ヶ崎菫園(さざなみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援の見極めは、十分な話し合いが必要。サービス利用にしても、グループホームがどういう所なのかも理解不足の家族もいられる為、いつでも見学・相談等の対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	パンフレットの送付、見学、入居にあたっての体験入居も行っている。本人が安心され、雰囲気徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の場の中で1人1人のご利用者の個性を引き出せるよう支援し支えあう関係を気づいている。(レクレーション・入浴中の会話の中等でご利用者の昔の様子 思いを聞きながら職員も学ばせてもらっている。)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	面会時等に日頃の様子をお話ししながら、今後、ご利用者にとって、どう支援していくか、家族と話す機会を持ち、支えていく関係を築いている。1ヶ月毎の生活状況送付もしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係の理解に努めている。 (家族との外出・散歩・自宅への外泊等)		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも誰が来ても、自由な雰囲気づくり、昔からの友人、親戚の方々が安心して足を運んでくれるように努めている。 (はがき、手紙等がきた時など返事のはがきを書くよう支援している。)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の場面において、利用者同士が、関わり合い、支えるよう努めている。洗濯物たたみ、花壇の手入れ、そうじなど、その中にご利用者同士の昔話等にさりげなく支え合う支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院にて退所した方が多く、その後も面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔からの暮らし方の希望、意向把握に努めている。食事時間は、決まっている為、声かけするが、本人の意向に沿って遅らせることもある。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴やサービス利用の経過等の把握に努めている。独居が長く、人に衣類をさわらせたくない方には、洗濯物を渡し、今まで通りの生活の暮らし方をして、ご本人にしまってもらい、見守りしていく。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタル測定、日勤、夜勤者からの申し送り等で心身状態等の把握をするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に、スタッフがご家族に日頃の様子を伝え、その上で、利用者・家族・医師等の必要な関係者の意見を反映した介護計画を作成している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、即した新たな計画を作成している。(たとえば、痛み訴え、歩行困難時の対応について)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>仕事に入る前の申し送りノート、個人記録を見て、その場の気づき等共有している。ご利用者が実際に言った言葉等も記録に残すようにし、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問診療で、24時間体制がとられている。医療関係者の指示に応じて対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ボランティアによる書道教室、外出など月4～5回、支援してもらっている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>通院(眼科、耳鼻科、訪問マッサージ、歯科 等)など支援している。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会等で地域包括支援担当者と協働している。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関との連携 2週間に1度の往診の実施 緊急時搬送先等、適切な医療を受けられるように支援している。(歯科医は、週1回の往診)</p>		

ミモザ茅ヶ崎菫園(さざなみ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	訪問診療の紹介で支援している。	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	利用者に急変があった場合に、看護師と連携をとっている。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	提携先の病院と連携しており、随時、状況を把握している。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	日頃から家族に状況を伝え、スタッフには毎日の申し送りや担当者会議等でケアの方向等を共有している。	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	身体状況の見極めについては、かかりつけ医と随時、連絡を取りながら、変化に備えて検討や準備を行っている。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	ケア関係者及び家族と十分な話し合いや情報交換を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフミーティング等で、職員にご利用者に誇り、プライバシーを損ねるような言葉かけ等の注意をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の場面で、ご本人が自分で決めたり、思いの希望を表せる時は、傾聴し、わかるよう説明を行い、納得しながら暮らせるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、その希望に沿って支援している。横になりたいと希望する方がいれば、ベッドに横になっていただき、散歩に行きたいとの希望があれば、職員と一緒に一緒に行ってもらおう。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。女性のご利用者でお化粧したい方は、職員が手伝ったり、マニキュアもされる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の食事から、一緒に準備、盛り付け、片付けをしている。 ・テーブルを拭く方 ・箸を置く方 ・盛り付け、調理をする方 ・食器を洗う方	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体面から、酒・たばこを医師から止められている方がいるが、おやつ・飲み物は、一人一人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。時には、ご利用者にスタッフとおやつを作ってもらおう。	

ミモザ茅ヶ崎菫園(さざなみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便意、尿意のない方には、本人に声かけし、納得の上、トイレ誘導し、排泄パターンの支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否のある方には、希望を聞き、タイミング良く入ってもらおう。時には柚子を入れたりし、入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	椅子、車イスで傾眠されているご利用者には、居室で休まれるよう声かけしている。 状況に応じて、休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクレーション、お茶の時間等に1人ひとりの生活歴を話す機会が多く、楽しみごと、それに要求が理解できることも多くあり、ご利用者の気晴らしにもつながっていると思う。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理がほしいが、お金については、1人ひとり希望により、使えるよう話してあるが、自由に所持して使えるようにはなっていないが、ご利用者の買い物等に希望により、スタッフが同行したりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日のドライブ散策は、その希望に沿って出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との衣服買い物、外食、墓参り等、外に出かけられる機会をつくり、支援している。		

ミモザ茅ヶ崎菫園(さざなみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたりすることは難しいが、手紙のやり取りでは、スタッフも一緒に、支援しながら行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも気軽に訪問でき、いつでも曜日関係なく、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアに取り組んでいる。 入所時に、帰宅願望により、出ていかれそうになるご利用者には、スタッフが側に常に居る様に努めている。 職員が施錠する事がある時は、理由を記録している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。 居室ドアに鍵を掛けるご利用者も中におられますが、状況によって開けてもらい、開放して頂いている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認、ご利用者の様子を把握する様、配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐ取り組みをしている。 例)キッチンには、常に包丁、ハサミ等は、見えない場所に片付けている。脱衣所では、洗剤類は鍵を閉めて対応している。スタッフルームは自由に使用されているが、片付けに注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員会、全体会議、スタッフミーティング等で、ご利用者の1人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		

ミモザ茅ヶ崎菫園(さざなみ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>全ての職員が応急手当での実践はしていない。今後の検討課題としたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

ミモザ茅ヶ崎菫園(さざなみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使い、栄養摂取や水分確保、水分量のチェックをし、1人ひとりの状態を把握支援している。(たとえば、あまり食事が長く摂れない場合は、医師と相談し、栄養確保できるよう支援している。)		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所より、予防のための取り決めがあり、実行している。予防等に関しては、壁に貼付している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用前の手洗い、食器、包丁、まな板類の消毒をしている。生の食材は使用せず、熱湯にくぐらせ、下茹で等している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、イス、テーブルを置いており、いつでも気軽に雑談できるようにしてある。玄関前のプランターは、季節の花を置いてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各スペースには、生活感や季節感をとり入れて、楽しめるように、観葉植物、花等が置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースとソファがあり、気のあった利用者同士が思い思いに、お茶等を飲んで過ごせるようにしている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園(さざなみ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族・本人の希望を相談しながら、仏壇・家族の写真・ちゃぶ台等、好みのものが置かれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、利用者が起きる前に窓を開けたり、朝の清掃時に開け、換気を行っているが、利用者の状況により、こまめに行っている。夜間時、利用者の希望、状況により居室に冷暖房を入れている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが各所にある。歩行、立位時、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常時、朝・夕の申し送り等で、利用者1人ひとりの状況等を伝えていき、不穏時の対応等も、その場で、話し合いながら行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のプランターの季節の花は、毎年、利用者が園芸店に行き、植えてくれている。玄関前にイスとテーブルが置いてあり、天気の良い日は、水やり、外気浴をしながらお茶等飲み、楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ミモザ茅ヶ崎菫園(さざなみ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフが常に明るく笑顔で、ご利用者との会話が多くある。常に利用者の体調等に留意し、良好な環境創りに努めている。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ミモザ茅ヶ崎萩園
(ユニット名)	しおかぜ
所在地 (県・市町村名)	神奈川県茅ヶ崎市萩園1202
記入者名 (管理者)	斉藤 春美
記入日	平成 21 年 4 月 8 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>会社の運営理念・運営方針の他に、事業所独自の理念と理念に対する介護の心得を作り、壁に貼付している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>スタッフミーティング、申し送りノート、全体会議等で、理念の共有・実践に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>・地域運営推進会議等で、地域の方々に、又、家族会等で”安心できる生活の場づくり”をお話している。 ・年2回、西浜中学校の研修に来てもらっている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>自治会のお知らせ、回覧板をご利用者とスタッフが一緒に渡しに行っている。近くのケアセンターの催し物のある時は、誘い出かけている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会長より、地域の催しを教えてもらったり、回覧板等で行事の情報を収集し、地域の行事に出かけたりしている。(昨年、萩園自治会文化祭、鶴嶺公民館での催し物参加)</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・運営推進会にて地域の方々から認知症の相談を受けていきますと言うこととお話します。</p> <p>・自治会のクリーン作戦に参加予定だったが、早朝(6:30)の海岸掃除だった為、参加することが出来なかった。</p>	○	<p>早朝のクリーン作戦は、参加できなかったが自治会長を通して地域の暮らしに役立つことがあれば参加したい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>部会を通じてグループホームの交換研修がまだ出来ていない。どこの事業所もスタッフが不足、現実には難しい。</p>		<p>どこの事業所もスタッフが不足、忙しいのが現状で、近期中に実践するのは難しい。</p>
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方々は、認知症への理解もあり、毎回、入所人数・ホームでの行事・見学者・ボランティアの受け入れ等、報告している。</p>		
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>茅ヶ崎市介護相談員が定期的に足を運んでくれている。生保のご利用者も入居されていることもあり、市担当者とは、連絡が密に行われている。</p>		
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を通して、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持った。</p>		
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は、全体会議、ミーティング等で虐待が見過ごされないよう防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時は、訪問調査等で、不安・疑問点を尋ねている。解約時は、利用者・家族と話し合い説明している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃よりコミュニケーションの中の職員は気づきとして、スタッフミーティング・ケアプランの作成時等の意見も反映に努めている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>1ヶ月の生活状況と個別現金票をご家族に送付している。健康状態については、状態により、その都度、家族に連絡また、広報誌にて職員の異動等お知らせしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情めやす箱を玄関に置き、ご家族にも気軽に投書していただくよう、面会時・家族会等で伝えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から意見・提案・改善等のコミュニケーションを取るよう心がけている。スタッフ会議、全体会議で報告され、スタッフの意見も聞いて話し合っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日頃から職員の確保と話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が変わる時は、引継ぎの期間をとり、スムーズに移行できるように配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>エルダー社員制度があり、新人職員にOJTで伝えるようにしている。法人内外の研修を受ける機会の確保(認知症実践者研修・認知症実践者リーダー研修等)にも努めている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者が2ヶ月に1回、茅ヶ崎市の施設部会や地域連絡協議会に参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>スーパーバイザーとして、話しやすい雰囲気づくりに、取り組んでいる。又、親睦会等においても話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいる。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日々、働き続けるための取り組み、運営者と職員個々との面接等を行っている。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者・現場リーダーの二人で訪問調査しながら、本人自身から、よく聴く機会をつくっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>面会時や家族からの相談には、その都度、よく聴くよう努め、スタッフ全員でミーティングをするよう努めている。</p>	

ミモザ茅ヶ崎菫園(しおかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	充分な話し合いがまず必要で、サービス利用にしてもグループホームがどういうところなのか理解不足の家族もおられる為、いつでも見学、相談等の対応をしている。	○	電話(ケアマネージャー又はご家族)で当ホームに関心を持っている方、どんな所なのかと連絡がある。そのようなときは、『夜以外は、いつでも見に来て下さい』と伝えている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	パンフレットの送付、見学、入居にあたっての体験入居も行い、本人が安心され、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の場の中で、一人一人のご利用者の個性を引き出せるよう支えあう関係を築いている。(レクリエーションや昼食時、入浴時等、会話の中でのご利用者様の昔の様子、思いを聞きながら職員も学ばせてもらっている。)		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	面会時等、日頃の様子や個人記録等を見てもらい、ご利用者にとってどう支援していくか家族と話す機会を持ち、支えていく関係を築いている。1ヶ月ごとに生活状況表送付もしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係の理解に努めている。 (家族との外出・散歩・自宅への外泊等)		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、誰が来ても、自由な雰囲気づくりの努めている。昔からの友人・親戚の方々が安心して、足を運んでくれるよう努めている。(はがきや写真を同封し手紙等の返事に送付している)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活の場面において、利用者同士が関わり合い支えるよう努めている。洗濯たみ・そうじ・モップかけ等の中で、ご利用者同士の昔話等をさりげなく支え合う支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後のご利用者との関係は続き、ご家族が状況を知らせてくれたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔からの暮らし方の希望、意向把握に努めている。起床時間の早い方(5時)遅い方(8時)その方の意向に沿うよう努める等している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	1人ひとりの生活歴やサービス利用の経過等の把握に努めている。独居が長く、人に衣類を触られたくない方には、洗濯物を渡し、本人にしまってもらったり、見守りしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝のバイタル測定、日・夜勤者からの申し送り等で心身状態等の把握を努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時に、スタッフがご家族に日頃の様子を伝え、その上で、利用者・家族・医師等の必要な関係者の意見を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合い、即した新たな計画作成をしている。 (例えば、膝痛訴えや嚥下困難の方の対応等)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>仕事に入る前の申し送りノート・個人記録を見て、その場の気づき等共有している。記録では、ご利用者が実際に言った言葉等も残すようにし、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>訪問診療等で、24時間体制がとられている。医療関係者の指示に応じて対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ボランティアによる習字教室・外出・歌等、月に4.5回支援してもらっている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>通院・訪問の支援している。 (眼科・耳鼻科・訪問マッサージ・歯科)</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進委員会で、地域包括支援担当者と協働している。</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関と連携し、2週間に1度の往診の実施、緊急時搬送先等、適切な医療を受けられるよう支援している。(歯科医は週1回の往診)</p>		

ミモザ茅ヶ崎菫園(しおかぜ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問診療の紹介で支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>利用者に急変があった場合に看護師と連携をとっている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>提携先の病院と連携しており、随時、状況を把握している。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>日頃から家族に状況を伝え、スタッフ日は、毎日の申し送りや、ケアカンファレンス等で、ケアの方向等を共有している。又、嚥下困難な利用者に対して食事形態等、医師とも話し合いをしている。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>身体状況の見極めについては、かかりつけ医と随時連絡を取りながら、変化に備えて、検討や準備を行っている。</p>		
<p>49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>ケア関係者及び家族と十分な話し合いや情報交換を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフミーティング等で、職員にご利用者に誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけ等の注意をしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の場面で、ご本人が自分で決めたり、思いの希望を表せる時は、傾聴し、わかるよう説明を行い、納得しながら暮らせるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切にし、その希望にそって支援している。横になりたい希望の方がいれば、ベッドに横になっていただき、散歩に行きたいと希望があれば職員と一緒に行動してもらう。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしい身だしなみや、おしゃれができるよう支援している。ご利用者で化粧したい方は、職員が手伝ったりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の食事から一緒に準備や食事・片付けをしている。 ・テーブルを拭く人 ・盛り付け・調理をする人	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体面から、酒・タバコを止めるよう、医師から止められている人いるが、おやつ・飲み物は、一人一人の状況に合わせて、楽しめるよう支援している。	

ミモザ茅ヶ崎菫園(しおかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	便意・尿意のない方には、本人に声かけ、納得の上トイレ誘導し、排泄パターンを支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否のある方には、希望を聞き、タイミング良く入ってもらおう。季節の柚子やしょうぶ湯としたり入浴を楽しめるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	椅子や車椅子で傾眠されているご利用者には、居室で休まれるよう声かけしている。状況に応じて休息したり眠れるよう支援している。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション、お茶の時間等に、一人ひとりの生活歴を話す機会が多く楽しみごと。それにより、要求が理解できることも多くあり、ご本人の気晴らしにもつながっていると思う。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム管理がほしいが、お金については、一人ひとり希望により、使えるよう話している。自由に所持し、使えるようになってはいないが、利用者の買い物等希望には、スタッフ同行したりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日のドライブ散策は、その日の希望にそって出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との買い物・外食等、外に出かけられる機会をつくり、支援している。		

ミモザ茅ヶ崎菫園(しおかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることは難しいが、番号をまわしご利用者本人が家族に電話したり、又、手紙のやり取りではスタッフも一緒に支援しながら行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも気軽に訪問でき、いつでも曜日関係なく居心地よく過ごせるよう工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケア一に取り組んでいる。入所時不安から帰宅願望により出て行かれそうになるご利用者には、スタッフがそばに居る様努め、職員が施錠する事がある時は理由を記録している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる。ご利用者の中には居室にドアの鍵を掛ける方もいますが、状況によって開けてもらい、開放していただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確認、ご利用者の様子を把握する様、配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険を防ぐ取り組みをしている。 例)キッチンには、常に包丁・ハサミ等は見えない所に片付けてある。洗剤類は脱衣所棚に鍵を閉め対応している。スタッフルームは自由に使用されているが片付けに注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全体会議、スタッフミーティング、勉強会等でご利用者一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。		

ミモザ茅ヶ崎菫園(しおかぜ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけをさらに強めていきたい。自治会の集まりに参加等</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

ミモザ茅ヶ崎菫園(しおかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使い、栄養摂取や水分確保、水分量のチェックをし、一人ひとりの状態を把握支援している。嚥下障害の場合は、医師と相談し、栄養確保できるよう支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所より、予防のための取り決めがあり、実行している。予防等に関しては、壁に貼付している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用前の手洗い、食器、包丁、まな板類の消毒をしている。生の食材は使用せず、熱湯にくぐらせる等している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、イス、テーブルを置いており、いつでも気軽に寄って、雑談できるようにしてある。玄関前のプランターには、季節の花を置いてある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各スペースには、生活感や季節感が楽しめるよう、観葉植物、花が置かれ居心地よく過ごせるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースのとソファがあり、気のあった利用者同志が思い思いに、お茶等を飲んで過ごせるようにしている。		

ミモザ茅ヶ崎萩園(しおかぜ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族・本人の希望を相談しながら仏壇、家族の写真等、好みのものが置かれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝、利用者の起きる前に窓を開けたり、朝の清掃時に開け換気を行っている。夜間時、利用者の希望、状況により居室に冷暖房を入れている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが各所にあり、歩行、立位時、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常時、朝・夕の申し送り等で利用者一人ひとりの状況等を伝えていき、不穏時の対応等もその場で話し合いながら行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のプランターの季節の花は、毎年、利用者が園芸店に行き、植えてくれている。天気の良い日は、水やり、外気浴をしながらお茶等飲み、楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

ミモザ茅ヶ崎菰園(しおかぜ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフが、明るく笑顔でご利用者様との会話が深くある。常に体調等に気付き又、振り返りながら環境創りをしている。